



取締役頭取

川上 肇

GREETING ごあいさつ

皆様には、平素より琉球銀行をご利用、お引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。

多くの皆様に琉球銀行をより一層理解していただくために、「琉球銀行の現状」（2017年度中間ディスクロージャー誌）を作成しました。

平成29年度上半期の国内経済は、輸出が持ち直すなか、企業収益の改善をうけて設備投資が持ち直し、個人消費も緩やかに持ち直したことから、全体的にも緩やかな回復基調が続きました。

県内経済は、企業の高水準な設備投資により建設が概ね好調に推移し、入域観光客数の増勢により観光が好調を続け、雇用環境の着実な改善を背景に個人消費も好調に推移したことから、拡大の動きを続けました。

このような環境のもと、日本銀行の「マイナス金利政策」による経営環境の大きな変化に加え、「金融仲介機能のベンチマーク導入」をはじめとする取引先企業の企業価値向上に向けた一層の取り組み強化を求める動きや「FinTechの進展」、「労働市場の逼迫」等、新たな課題も浮上してきました。これらの課題解決に向け、中期経営計画「Shared Value 2015」を計画期間の1年を残して見直し、当行は平成29年度から新たな中期経営計画「Customer Centric 2017」をスタートさせました。「Customer Centric 2017」では、真にお客様にとって必要とされる商品、サービスを提供する「顧客本位の収益モデルの実現」を経営目標に掲げ、当行が抱える課題の解決を通じて地域のお客様との共通価値を生み出すビジネスモデルを構築してまいります。

平成30年 1月